

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 三井造船株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒104-8439 東京都中央区築地五丁目6番4号	
本票作成	部署名：玉野事業所 総務部施設グループ				
主たる業種	分類コード	31	業種名：輸送用機械器具製造業		
事業の概要	船舶製造・修理業、船用機関製造業				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	玉野事業所		岡山県玉野市玉三丁目1番1号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 28)年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	49,700 t CO ₂	54,429 t CO ₂	47,215 t CO ₂

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 28)年度排出量
	①	玉野事業所	54,429 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(28)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 4.1 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 基準年度：49,700tCO ₂ /2.403百億円(作業高) H28年度：54,429tCO ₂ /2.528百億円(作業高)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(28)年度	目標年度
		20,684.000 t CO ₂ /百億円)	21,530.000 t CO ₂ /百億円)	19,650.000 t CO ₂ /百億円)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 28 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

平成28年度の温室効果ガス排出量(54,429tCO₂)は、基準年度(平成26年度：49,700tCO₂)に比べ9.5%増加しました。
 また、平成28年度の生産高(2.528百億円)は、基準年度(平成26年度：2.403百億円)に比べ5.2%増加しました。
 依って、原単位(温室効果ガス排出量/生産高)は、基準年度比4.1%増加となりました。
 原単位増加の要因としては、高操業が続いているものの作業の効率化等によって生産高が抑えられたこと等が考えられますが、目標年度(平成31年度)までに5%削減を達成すべく、引き続き諸施策を検討・実施いたします。

【推進体制】

1. 2000年10月に取得したISO14001に基づき、事業所長をトップとした環境管理体制を確立。
2. 省エネ法に基づき、エネルギー管理統括責任者を中心としてエネルギー管理標準を策定し全所で運用。
3. 全所で電力調整会議を毎月定例開催して、生産調整をし電力使用量の平準化を実施。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
玉野事業所	<p>(平成28年度実施分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存電気溶接機を省エネ型溶接機に代替(40台/年) 2. 操業度増減に伴い過大な変圧器を切り離し無負荷損失の防止。 3. 溶解炉等の特定大型電気設備の運転調整により使用電力量の平準化の実施 4. 新施設建設時及び既存照明器具代替時はLED照明を採用。 5. 新施設建設時及び既存空調設備代替時は省エネ型空調設備を採用。 6. 老朽した潤滑油清浄機を最新機に代替しフラッシング時間を短縮。 <p>(今後実施予定分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存電気溶接機を省エネ型溶接機に代替(40台/年) 2. 操業度増減に伴い過大な変圧器を切り離し無負荷損失の防止。 3. 溶解炉等の特定大型電気設備の運転調整により使用電力量の平準化の実施 4. 新施設建設時及び既存照明器具代替時はLED照明を採用。 5. 新施設建設時及び既存空調設備代替時は省エネ型空調設備を採用。 6. 老朽した潤滑油清浄機を最新機に代替しフラッシング時間を短縮。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

1. 冷暖房設備の使用電力低減のためクールビズ(5～10月)・ウォームビズ(11～4月)運動を実施。
2. 事業所構内へ入場する全車両に対してアイドリングストップ等の啓発ビラ配布等の実施。
3. 老朽社有車の代替時に低燃費・低公害車への代替検討及び実施。
4. 休日・夜間等における局所的な使用電力の対応に小型発電機を有効利用。
5. 受注船舶等への省エネ機器の搭載を客先へ提言・実施。
6. 原動機部門における省エネ及びNOx・SOx低減エンジン技術の開発を継続実施。
7. 自家発電設備3基の内、重油仕様の2基を休止しLNG仕様のガスエンジン1基のみを稼働。
8. 事業所内に太陽光発電設備(2MW)を2013年(H25)に設置し、CO2削減及び再生可能エネルギーによるクリーン電源の拡充。
9. 工場立地法に基づき、敷地面積に対して緑地面積率：28.9%、環境施設面積率：32.3%を確保。